

琉球沖永良部語の再活性化

草の根活動から行政との連携協力協定まで

山田真寛 | 言語変異研究領域 <https://plrminato.wixsite.com/webminato>

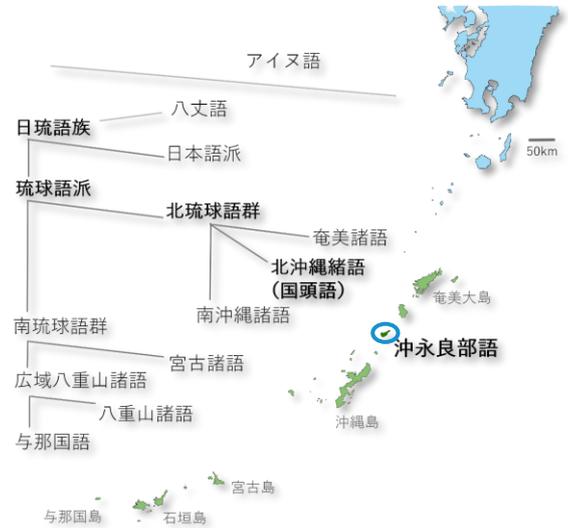


沖永良部語

日本語と姉妹関係にある琉球語の一つ。沖永良部島（鹿児島県大島郡）のだいたい60歳以上の人たちが日常的に使っているが、子どもたちには継承されていないため「いま何もしなければ」なくなってしまうと言われている。島では「しまむに（島/故郷+ことば）」と呼ばれている。

沖永良部島の和泊町・知名町と国立国語研究所の連携協力協定

沖永良部語の継承保存（再活性化）を目的として2019年に締結され、直後から複数の実質的な事業が開始された。以下のように2015年から継続してきた草の根活動がベースになっている。



事業例 | 町職員研修会、中央公民館講座、方言ミュージカル、人形劇、…



コミュニティのニーズと研究者が提供できるものの相互理解
しまむにの記録や指導ができる人材が育成されている
クリエイターとの協働が持つ継承保存に対する効果への理解

家族や地域内の3世代で取り組む「しまむにプロジェクト」

1. 家庭内でしまむに使用を促進する「しまむにコンテンツ」を制作する（夏休みの自由研究）
2. つくったものや制作過程を、島内の他の人たちと共有する（島内発表会）
3. しまむにと合わせて島外の人に発信する（国語研発表会）



キーパーソンとの協働

コンテンツ制作・文法調査・トレーニング
絵本や動画などの地域言語コンテンツを制作しながら文法調査を行い、協働者に言語記録などのトレーニングを提供。絵本は制作途中の段階から地域内の読み聞かせ会や製本ワークショップ&朗読会で利用し、フィードバックを反映させて完成させる。



言語コミュニティへの発信：プロジェクトの認知向上と新たな協働者の獲得

- ・ フィールドワーク滞在中に毎回、大小さまざまな規模の発表会やワークショップを企画。お願いして機会をつくってもらうことも、依頼を受けることも。
- ・ イベント毎にリリース文と合わせて地方新聞記者に取材依頼。広報誌への寄稿やウェブサイト・SNS発信なども。

